



2023年12月会報 第350号

国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

2023 主 題 “Let Your Light Shine” 「輝かそう、あなたの光を」

スローガン “Good Communication is the Cornerstone in Every Cooperation”

「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

アジア太平洋地域会長 (AP) 利根川 恵子 (川越)

~ 主 題 “Be the light for change” 「変革のための光となろう」

スローガン “Shine and empower through fellowship” 「親睦を通して、輝き、力を得よう」

東日本区理事 (RD) 山田公平 (宇都宮)

2024 主 題 “Instil Confidence in our Youth!”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

スローガン “Youth Empowerment through SDGs Youth Action”

「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」

湘南・沖縄部部長 (DG) 黒川 勝 (金沢八景)

主 題 主 題 “初心に帰り、新たな船出に踏み出そう” 副 題 「ワイズメンズクラブは YMCA とともに」

クラブ会長 吉原 訓 主 題「原点回帰」副会長若木一美・書記 加藤利榮・会計 岡 進・メネット 吉原和子

会員ひとこと

☆年の瀬もノンビリと…☆ 加藤利榮



世間で言われる‘年の瀬’となりました。この1年を顧み、来る年に向けての心構えなど思うひと時かもしれませんが、皆さんはいかにお思いでしょうか…。

わたしごとで恐縮ですが、年が明け2か月足らずで「4」になります…。さらに、手許の手帳には「59年 Y・Y's 入会」とありますので、その道在籍65年になりますか…。

以前にも、この欄に書かせていただきましたが、今でもあまり捗ってはおりませんが…。「断・捨・離」は実行中です。よく周りの方々から、「時間を持て余しているのでは…」と聞かれることもあります。その点は「心配ご無用」で、テレビの「名画劇場」やこのブリテン編集に多くの時間を充てる日常です。お蔭で、「名画」の方はメモを始めて以来260本を超えました。良くしたもので、上映時間が200分を超えるモノはインターミッション (おトイレ休憩) もある等、サービス満点です…。「戦争と平和」「ベンハー」「クレオパトラ」等々、名優の出演や空前のエキストラの数でも話題になった名画もいくつか観ました。さて「掛けコトバ」一つまいりましょうか…。 “EMC” と掛けて、‘そば打ち初体験’ と説く、ここは「思うようには伸びません…?」

◎ 今月の聖句 ◎

今日、タビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

—ルカによる福音書2章11節—

“あと何日したらクリスマスがやって来るのかなあ…” この思いは、子どもたちだけではなく、大人の私たちにもそうした思いを持つようになりました。自分たちにとり将来に喜ばしいこと、楽しいこと…があるのをココする心、この‘待つ’ことは決して無駄ではありません。落ち着きを身に付けること、この忙しく慌ただしくなりがちな、そしてコロナ禍も一段落の今、‘待つ心’を…。

強調月間

キリスト教理解・IBC

今月8日は祈りの輪の日、ワイズの創始者 P.W.Alexander の誕生日、世界のワイズが「共に祈る時」を…。併せてワイズはクリスチャン・スピリットに思いを致したいものです…。

◎ 3年ぶりの「い〜とつか祭」が…。(後掲)

◎ 11月例会：10名出席・出席率：92%

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

★強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う★



日 時：2023年11月3日(金・祝)10～14時
会 場：湘南とつかYMCA・1階ホールほか
出席者：吉原会長・浦出・岡・加藤・薩摩・柴原・
鈴木・瀬戸・土方・若木

(メット) 若木メネット (以上11名・敬称略)

‘ハレ’の特異日といわれる11月3日、吉例の‘い〜とつか祭’が開催されました。今年は、ほぼコロナ以前に戻る企画で幕を開けました。

前日の整理を終え、定刻の10時、年々、献品は減ってきてはいるようですが、開場を待って並ばれる‘お客様’もやや減少気味…、そして、それかあらぬか、以前の‘無銭購入’(?)のお客様も、ほとんど影を潜めました。そんなこんなで、開場して20分ほど経過したころには、目玉は殆ど売り切れ! その後は落ち着きを取り戻しました。引き続いて、午後は、13時から別のプログラムが予定されている関係で、私たちの‘ノミの市コーナー’とお隣さんの‘保育園コーナー’は、共に正午ごろまでには、‘蛍の光’の流れる中、整理とお片付けを終えることができました。

次は、零時30分にとつかYMCAを出て、リーダー会と共にYMCA周辺の美化作戦、表のアピタ・ビル前から東戸塚小学校を回って戻りましたが、駅前の繁華街の割には、いわゆる‘ポイ捨て’が意外に少なく、最近では、こうした方面にも、市民感覚が変わってきていることを感じました。

この美化作戦を最後に、3年ぶりに開かれた「祭り」のプログラムはすべて、事故もなく、無事終了しました。

1階ロビーから屋外のプール前広場にでると、持ち出した

折りたたみ椅子に腰かけ、多くのお客さんが、口に頬張りながら、談笑の真っ最中…、微笑ましい光景が広がっておりました…。

その後、私たちは屋外の特設会議場で、11月例会を開催し、当面の日程等の確認や区・部・他クラブ等の動きや情報等が会長から紹介され、特に厚木の小松直前部長から提案のあった「音楽・スポーツ」中心の新クラブの設立」についても、今後とも関心をもって検討しては…ということが会長から提案・論議された後、14時、閉会点鐘となりました。

コロナ禍で数年近くこうした催しも無かったこともあって、職員さんや学生さんにもピンとこない面もあったようでした。また、来年もP (p l a n) ・D (d o) ・C (c h e c k) ・A (a c t) で頑張らしましょう! それ、行け…。



☆部大会・部評議会から☆ 若木 一美

11月25日(土)14時から湘南とつかYMCAホールで第27回部大会が開催された。第一部は講演会、ウクライナ・オデッサ市出身で現在横浜市国際局に勤めるコバリエヴスカ・ナタリアさんを講師にウクライナの映像と現在の戦時下の様子が語られました。(写真)いつまで続くか不安の中、私たち一人ひとりも何ができるかを考え、行動することが必要と感じました。

第二部は部会、山田理事ほか7名の紹介、佐竹総主事の挨拶(ZOOM)・理事挨拶のあと、明年6月・北海道帯広市で開催の「第27回東日本区大会」へのお誘いがあり、終了しました。

第三部は、小松直前部長が進める、横浜クリエイティヴアーツの皆さまによる小ミュージカル「ディア・エバン・ハンセン」の小舞台を観ました。小松さんは、このメンバーを中心に新クラブを結成したいという強い思いをもち、活動されています。

定刻16時に大会は終了、小憩の後、「第2回評議会」が開催され、私から提出の議案も承認されました。また、部新年会を1月13日(土)開催する等、4つの案件がいずれも賛成多数で可決・承認され、次いで各クラブ報告等がクラブ会長からそれぞれあって、17時、閉会点鐘となりました。

☆第11回You&Iコンサート開かれる☆ 加藤利榮

コロナ禍の空白期間において11月18日(土)、11回目となる横浜つぎクラブ主催のこのコンサート、前夜来の雨もからりと晴れ上がり、14時、予定通り都筑公会堂の幕が上がりました。「誰もが楽しめるバリアフリーの集まり」、第1回からずっとお馴染みの佐藤大祐さん率いる横浜室内合奏団・同歌劇団の皆さん、クライスラーやヴィヴァルディの古典の名曲のサワリを存分に、そして、「商売上手」と題したオペレッタも、客席を沸かせ、なかなか堂に入ったモノでした…。

写真など撮らせていただく関係もあって前列2列目に鈴木ひろ子さんと座り、お顔なじみの方々からご挨拶を頂く形となり、恐縮してしまいました。

終わって場外に出て、笑顔に満ちたワイズやゲストらとご挨拶を交わし、余韻を楽しみながら駅へと向かいました。



特別 寄稿

★大震災から12年余り経った「今」の状況について★

石巻広域クラブ 書記 川上 直哉

今、石巻でも「さよなら ほやマン」という映画が上映されています。石巻の離島を舞台としたドラマです。関東で・東京で「3.11」を体験し、実家が完全に流された…、という石巻出身の映像作家が、長編映画初監督として世に問うた作品です。いくつもの「3.11」の映像作品を観ましたが、これは群を抜いて素晴らしいものでした。「12年余り経った」ことの、一つの果実と思われました。

ようやく、ある程度の適度な距離をもって、私たちも「大震災」を見つめることができるようになったのだと思います。

今、感じていることを二つほど、記します。

一つは、津波被災地です。そこには「見える復興」がゴロゴロと広がっています。でも、その「見える」姿の中には、「見えない荒廃」が色濃く映り込んでいる気がしています。



(福島第一原発処理水タンク群)

その「見えない」ものは、被災地にとどまらない、私たちの世間全体の「何か」だと思います。今、津波被災地を見ていただくと、私たちの世間の歪みがよく見えると思います。

ぜひ、自分たちを見つめ直すために、また津波被災地にお越しいただければ…と願っております。

もう一つは、原発被災地です。そこには「風化」が残酷なほどに露呈しています。原発事故由来の「がん」、その他のあることは、数値として、専門家によってはっきりと示されており(ブックレット『福島小児甲状腺がんの「通常発症」と「被ばく発症」』等)。しかし、それは「見なかったこと」にされている。それを見ることは「風評被害だ」とすら言われかねない。

そうした中で、子どもたちを守ろうとする働きは続いています。ワイズメンズクラブも、YMCA運動も、そこにつながるようとしています。ぜひ、関心を寄せ、つながり続けてくだされば…と願っております。



(雄勝地区の巨大な防潮堤)

以上、東日本大震災発生から12年余り、発生直後から今まで皆さまからは多くのご支援とお励ましをいただきました。改めて心より感謝を申し上げ、簡単ですが、今の状況の報告とさせていただきます。

師走随想



☆ ユースリーダーとともに ☆

部ユース事業主査 板崎 淑子 (鎌倉)

私は、今期、湘南・沖縄部のユース事業主査をしております。

今回は、9月29日～10月1日、東京YMCA山中湖センターで行われたユースボランティアリーダーズフォーラムについて

述べます。本フォーラムは、今年で35回目を迎え、ワイズメンズクラブとYMCAが協働して行うプログラムです。東日本に位置する各YMCAから経験1～2年目のリーダーが集い、グループカウンセラー(リーダーOB、OG)のもとでメンバー体験をします。この体験によってリーダーたちは、新しい経験や気づきを与えられています。このフォーラムのテーマは長年「今、ユースボランティアリーダーに求められるもの」でしたが、今回から「私たちにとっての 見つかる。つながる。よくなっていく。」となりました。近年、リーダーの活動の場が、野外活動、ウェルネスに加え、学童保育や特別支援教育、放課後等ディサービス、語学教育、福祉等に広がっている現状があり、その中でリーダーたちが「一緒に何を学ぶのか」「どのように仲間を作るのか」「どのように人間として成長するか」の3つの視点からプログラムの見直しが行われました。

私は、残念ながら当日は参加できなかったのですが、10月の鎌倉クラブの例会で、参加者の佐藤元さん(はじめリーダー)が報告してくれました。「私たちがよくなっていく」には、どうしたらよいかをテーマにグループでディスカッションをされたそうで、その中で「①挑戦 ②選択肢が多く経験格差のない社会 ③笑顔 ④当たり前のない世界 ⑤自分も他人も個性を認め合える世界」というキーワードが挙げられたそうです。

私自身の20代から30代の頃(1980～1990年代)とは異なる社会背景を生きているユースたちの発想には学ぶべきことが多々あり、世代は異なっても同じ時代を生きている者どうし、共に「今」を考え、行動していくことができれば…と思います。

(以上)

☎ 川上様・板崎さん

大変貴重で説得力ある玉稿、有り難うございました。ワイズメンズクラブが、YMCAとともに様々な形でいっそう協力し合いながら、これからも活動を続けていかなければなりませんね…。(t/k)

《レザン通信》

☆横浜YMCAのバザーに参加して☆

横浜ワークサポートセンターレザン 相馬 良文



11月は、例年、バザー・シーズンです。4年ぶりに飲食が解禁となり、ワークサポートセンターでは、バザーへの参加を再開することができました。

レザンでは、アンジュのパンとともにコーヒーや手作り品の販売を行いました。(11月3日湘南とつかYMCA・北YMCA、同11日東戸塚小学校まつり、同23日藤沢YMCA) ㊦

…と、間を空けずにクリスマスに向けて手作り作品の制作にみんなで取り組んでいる真っ最中です。





ピンクシャツデーの取り組み～

担当主事 瀬戸 俊孝

文科省の報告によれば、昨年度、学校で把握された「いじめ」は68万件と過去最多となり、自殺や不登校などの重大事態も200件以上増えて923件となっています。不登校児童は加速度的に増加し、30万人に迫っています。部活や行事などが再開し、接触の機会が増えたことが増加原因の一つと指摘されていますが、その件数はコロナ禍以前を大きく上回っております。いじめによって、つらい日々を過ごしている子どもたちが大勢いるという現実が心痛みます。

YMCAは引き続き、社会全体でいじめに向き合うこと、差別や偏見、分断ではなく、誰もが安心して暮らせる社会の創造を目指して、今年度も2月にピンクシャツデーに取り組みます。

過去には、YMCAと、とつか・鎌倉両ワイズメンズクラブ協働で、このための「サッカーイベント」を行いました。コロナも落ち着き、日常の生活の制限もなくなってきましたので、今年度はまたイベントの再開を目指していきたいと思っております。



【今月の歳時記】

“冬木立・霜柱”

ふゆこたぢ：冬木の立ち並んだもの。葉が落ちて、いかにも寒々とした木立をいう。

北風が冬木立をヒューヒューと通り抜ける様は寂しげである。長い冬をじっと耐え忍ぶといった感じである。また、雪の積もった朝などの冬木立の景色は美しい。冬木群ともいう。

斧入れて香におどろくや冬木立	蕪 村
其中に境垣あり冬木立	虚 子
隔心の弟子に会ひけり冬木立	石 鼎
雨ふりていよいよ黒し冬木立	すすむ

しもばしら：晴れた厳寒の日に、地表の水分が氷って細かい柱状となったもので、群立して土を持上げる。湿気の多い柔らかい土質に多く生じ、砂地や粘土には生じない。朝早く靴で踏むとザクザクと音をたてる。10～20センチにも及び、畑や庭を荒す。霜の多い朝にできることが多いので、この名があるが、霜とは何ら関係がない。

霜柱ざっくと梯子立てにけり	唐 淵
霜柱歓喜のごとく倒れゆく	朱 鳥
むらさきは月の匂ひのしもばしら	葛 彦

◎ 第100回Y-Y's協議会

12月5日(火)・19:00～20:30湘南とつかYMCAホール
100回目となる記念の会合です。ゲスト・ビジター歓迎

◎ 湘南とつかYMCAリーダー会との交流会・食事付き

12月9日(土)・12:00～：湘南とつかYMCAホール
お待ちかねの交流会です。多くの皆様のご参加を…。当日は、1階ホールにて、リーダー会から15名ほど参加し、薩摩館長によるクリスマスに因んだお話しと今のとつかYMCAに関する説明などを予定しています。当日は、飲食も準備される予定です。

◎ 横浜YMCAクリスマス礼拝とハンドベル演奏

12月16日(土)13:30～・横浜指路教会
メッセージ 藤掛順一牧師

なお、藤掛牧師は、お父様の藤掛豊盛牧師のご長男に当たられ、1990年に加糖ワイズが藤沢北教会でお父様牧師により受洗されています。



トピックス ～'かかしの独り言' から～
(その一) '12月のハナ' ベスト5と花ことば

- ① ポインセチア：聖夜・祝福する
- ② クリスマスローズ：追憶・私を忘れないで
- ③ 黄色いバラ：友情・嫉妬
- ④ 白いバラ：乙女の純潔・深い尊敬
- ⑤ パンジー・ピオラ：誠実・信頼

(その二) 'しわす' (旧暦の12月) って…

「師走」の字が充てられることから、僧侶がお経を上げるのに東西を馳せる月…との言い伝えからという説で知られていますが、この月の別の名を「晩冬」とも呼び、陰暦の10月から12月の「冬」の終わる月を指しての呼び名との説もあるようです。次の春の暦の「睦月」を待つ…という意味から、一名「春待月」と呼ばれているのもご存じのとおりです…。

(その三)「部」の呼び名のいわれ…?

私らの所属する「部」は、ご存じ、'湘南・沖縄部'、'・'が付されている部名は、東日本区内では我が部のみです。ところで、今から2年ほど前に那覇クラブが'会員減少'等を理由に区から離れましたが、部の名は、そのまま'・'付きで、「湘南・沖縄部」、いつの日か…、といった思いも無きにしも非ず…。関連で思い起こすのは、7クラブを有する「東新部」、こちらは、新潟へのEMCに願いを込めて…と伺っております。

(後記) 'トシのゼ' もいよいよ…でしょうか…。 (t/k)